

国際センター通信(特集第2号)

国際センター通信特集号 特別企画

◆ 活躍する土木系女性技術者の紹介

1. 企画について

今回、国際センター通信の特別企画としまして、土木学会会員の方で土木系女性技術者の活躍を紹介したいと思います。

ここ最近、マスコミなどで土木系女性技術者の活躍がクローズアップされており、土木学会社会コミュニケーション委員会においても、土木系女子（コミックの中では、重機のオペレーター）が活躍するコミックの紹介がなされました。国際センター情報グループでは、海外へもそのような動きを伝えるべく、国際センター通信でも取り上げることとしました。

今回は、首都高速道路株式会社の三村様にご協力頂き、Q&A方式で回答して頂きました。プロジェクト紹介や技術的、専門的なお話ではなく、あえて人物に焦点をあてることとしました。普段の報告記事とは少し違いますが、ご一読頂ければ幸いです。

2. 土木学会社会コミュニケーション委員会

第1回 土木 a la mode 「ドボジョ！が少女マンガのヒロインになる。」

土木に関して広く最旬の話題をとりあげたり、ゲストをお招きしてお話を伺おう、というコミュニケーション活動の一環として企画されました。

トークショー会場では、ドボジョをヒロインとしたコミック編集担当者に、企画の動機などについてインタビューがなされました。また、参加者の女性から現場の体験談を語っていただくなど、和やかな雰囲気の中で、土木業界で活躍する女性たちの紹介がなされました。

今後もこのような企画を継続していき、土木をもっと身近に感じていただけるよう伝えていきたいと考えています。



第1回土木 a la mode 会場



土木系女子の活躍を描いたコミック
「ドボジョ」全3巻

★第1回 土木 a la mode 詳細はコチラ : <http://committees.jsce.or.jp/publicity/node/36>

3. 三村さんインタビュー



三村 啓子

首都高速道路株式会社技術部技術推進課担当課長（知的財産）

1989年首都高速道路公団入社。主に新規路線の交通安全対策等調査計画業務に従事。5号池袋線タンクローリー火災事故、距離別料金への移行に伴うお客様対応業務に従事後、2012年9月より現職。

Q1. 土木の世界に入ったきっかけは？

土木の世界に入るきっかけは、スポンサーの意向です。高校3年生で理系クラスに進んだ私に「土木の大学へ進むのであれば、学費は出してやる。それ以外は、貸してやるから自分でいけ。」と測量士の父が言いました。当時、英語が苦手という消去法で理系クラスを選んだ私には、自腹ででも学びたいほどの学問はありませんでした。

Q2. 仕事の中で一番うれしかったことは？

仕事の中で一番うれしかったことは、「本当に地元のことを考えてくれる人がきてくれた。」と言われて握手を求められたことです。今、人の生活を支えているのは道路だと思った私は、道路を仕事にできる就職先を探しました。均等法改正前の平成元年、何とか潜り込めた首都高速道路公団(当時)で首都高速道路を作ったり、守ったりできるようになりました。数年毎に変わる担当業務のひとつに、首都高速道路の関連街路である一般道路を作るというものがありました。そこでの道路植栽に地元のビオトープ用に種から育てた木を使う提案をしたところ、大変喜ばれたのです。自分のこの苦労が自己満足或いは自社満足で終わっておらず、使う人に喜んでもらえたことが大変うれしかったのです。



Q3. 仕事の中で辛かったことは？

辛かったことは、ありません。その当時「辛いこと」はありましたが、後になってまで「辛かったこと」として残るほどのものはなく、「あの時は大変だったけど、今思えば良い経験」ばかりです。経験を次に活かそうとするタイプなのかもしれません。

Q4. 将来の目標は？

将来の目標は、一目見てお婆さんとわかる老人になることです。私もそろそろ天命を知る年頃となり、ふと、来し方行く末を思うことがあります。これまでの総括すればまあ良い人生でした。○×をつければ、私的には○です。では、これからをどう過ごせば○のまま人生終わられるのでしょうか。私が素敵だと思う先輩方のように私もなれば良い。そこで、素敵だと思う先輩方の共通点を探してみました。どの方も幾つになっても女性にしか見えません。初対面で「男性かな？女性かな？」と思わせるような方を私は素敵だと思うことは無かったのです。振る舞い、化粧、衣装、もちもの。皆様、女性らしさを様々な方法で演出なさっています。遅ればせながら、私も挑戦します。



Q5. 好きな言葉やモットーは？

好きな言葉は、「継続は力なり」。昔、お茶の先生から教えていただきました。細くても続けることで身につく力となる、無理しないけどあきらめない、と理解しています。

Q6. 次に続く女性技術者へのメッセージを

次に続く女性技術者へのメッセージは、「郷に入れば郷に従え」です。増えつつあるとはいえ、まだまだ少数派。女性は、土木の世界に存在するだけで既に強く自己主張しています。また、技術者であれば譲れない技術的意見もあるはず。ならば、それ以外のことは多数派である男性が持っているルールに従って良いのではないかと思うのですが、如何でしょう。もっとも私が周囲からそのように評価されているか否かは保証できませんが。



お忙しいところ、今回の企画にご協力頂きありがとうございました。

イベント情報

- ・ 8/20-22 : ACECC 6th CECAR (インドネシア・ジャカルタ)
(<http://committees.jsce.or.jp/acecc/6thcecar>)
- ・ 9/4-6 : 平成 25 年度 土木学会全国大会 (日本大学津田沼キャンパス)
- ・ 10/9-12 : ASCE 年次大会 (アメリカ・ノースカロライナ州 シャーロット)
(<http://content.asce.org/conferences/asce-annual2013/>)
- ・ 10/23-25 : KSCE 年次大会 (韓国・江道原)

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website (英語版) にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 33 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>

御協力をお願い

国際センターでは、国際活動に関する“情報発信の強化”を目標に掲げ「国際センター通信」を配信しておりますが、更に配信先を拡大し、皆さまと情報を共有していきたいと考えています。

つきましては、皆さまより周囲の方々へ国際センター通信をご紹介いただき、国際センター通信の定期的配信を希望される方には、次の登録フォームよりご登録いただくよう御案内いただけませんか。何卒、御協力のほどよろしく願いいたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・ 日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・ 英語版 : (http://www.jsce-int.org/pub/registration/non-international_students)
- ・ 英語版 (日本の大学等への留学経験をお持ちの方) : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/30>)

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。